

館報

おかえり  
じゃんずら



7 月号

No. 807

令和5年  
(2023年)



## 地域の方と接すること

おくはら まい  
**奥原 舞**さん

村内のガソリンスタンドで働く奥原さん。ハツラツとした明るい声でお客さんと接する姿は仕事場に活気を感じさせます。

お客さんの接客を終えた奥原さんは「仕事を通じて地域の方と接することが楽しい！それがやりがいです」と話してくれました。

(6月21日 ENEOSグリーンロードやまがたSSにて)

働く姿

# 告知板

## 第8回山形村村長杯 マレットゴルフ大会 参加者募集!

**日 程** 9月10日(日) 午前8時30分から  
**場 所** なるう原公園マレットゴルフ場  
**受付期間** 8月11日(金)から  
 8月27日(日) 午後5時まで

**参加費** お一人500円  
**主 催** 山形村マレットゴルフ愛好会

**申込・お問い合わせ**  
 お住まいの地区の役員へご連絡ください。

- |     |          |               |
|-----|----------|---------------|
| 上大池 | 山口 修さん   | ☎0263-98-4721 |
| 中大池 | 伊藤 みどりさん | ☎0263-98-2275 |
| 小 坂 | 倉沢 長久さん  | ☎0263-98-2559 |
| 下大池 | 百瀬 重治さん  | ☎0263-98-2302 |
| 上竹田 | 桐原 淑子さん  | ☎0263-98-2903 |
| 下竹田 | 赤羽 誠さん   | ☎0263-98-4086 |

6月27日(火)、毎年恒例となった商工会青年部と農村青年会議による合同ごみ拾いが行われました。商工会館前での出発式で、商工会青年部長の埴和貴さん(上竹田)から「農業者に敬意を表して、農道をきれいにしたいです」と挨拶があり、4班に分かれてサラダ街道東側の農道へ向かいました。今回は粗大ゴミのような際立った物はありませんでしたが、飲み物の空き容器や、タバコの吸い殻が多かったように思います。

### 商工会青年部・農村青年会議合同ごみ拾い

1時間ほど農道を回った参加者は商工会館前に戻り、ゴミの分別をして合同活動は終了しました。農村青年会議会長の青柳まどかさん(中大池)からは「忙しい時期でしたが、たくさんの人に集まってもらえて、作業ができてよかったです」とコメントを頂きました。今回は長らく開催されていなかった睦会が復活し、同じ村で生業をしている者同士の交流が深まったように感じました。



### 複合施設ワークショップ ミュージアム機能編



6月17日(土)、ミラ・フード館ホール・ミラにて、第2回複合施設ワークショップが開催されました。今回のテーマは「ミュージアム」。松本市文書館特別専門員の窪田雅之さんがファシリテーターをつとめ、参加者が理想のミュージアム像について語り合いました。子どもから大人まで楽しめる空間を目指し、「企画展を増やしたい」「専門知識のある職員を配置してほしい」「展示資料に触つてみたい」「グッズを販売したい」など、さまざまな角度から意見を出す参加者たち。特に「山形村の歴史を振り返るだけでなく、山形村の未来に想いを馳せることのできる空間にしたい」という意見には、賛同の声が多く寄せられました。

### 若者集うじゃんぶろ会議 人材は地域資源

8月14日(月)に夏祭り山形じゃんぶろが4年ぶりに開催されます。実行委員会からの若者の意見をもっと取り入れたいという声を受け、発足された「じゃんぶろぷろじえくと」通称じゃんぶろは、中学生から社会人の10〜20代で構成された、祭りを盛り上げるワーキンググループです。会議の場では、参加者は車座になるなど、和やかな雰囲気作りが随所になされていきました。6月24日(土)の第2回会議では、プレイベントの企画を中心に意見が交わされました。

じゃんぶろ代表で大学生の大岩音寧さん(下大池)は「人材は地域資源です。じゃんぶろのような活動で、かくれていた魅力的な人材が発掘されることで山形村の未来が明るいものになっていくと思います」と話してくれました。



# 山すそ

今年の半夏生は7月2日から5日間、夏の土用が7月30日。7月号が届く頃、梅雨が明け学校は夏休みに入っているのだから、高校生は文化祭を終えて迎えた夏休み、疲労はピークを脱して次の課題に移っている頃だろうか。中学校1年生は学校に慣れ、今井や朝日に友人はできたらうか。小学1年生は歩いて通うのに慣れたらうか? 夏休みは日頃できないことに挑戦できる。ゲームも良いだろうが、うんと本を読め! 村の図書館も待っている。▼高校生は、「これなら誰にも負けない、自分はこれで勝負する。この道で生きていこう!」を探すとき。読書は模索の手助けに、体験は血肉になるはずだ。中学生は、体力をつけ勉強もする時。部活動に勤しむと自ずと友人もできる。そして自分からの取り組みは、自分の礎になる。▼努力はいつも報われないかもしれない。でも、努力しないと報われることも無い。それから生きていて、「もう駄目だ」なんて思う多くない。なんとかなるもの。君たちには豊かな未来がある。



木工



手工芸



はちもり大豆講座



学区内の生態系



福祉



朝日太鼓



歴史探訪



地域お助け(山形村)



地域お助け(朝日村)

### 鉢盛中学校3年生 白峰タイム

3年生の総合的な学習の時間『白峰タイム』が

今年も始まりました。多種多様な講座が用意され、希望した講座を受講します。3市村に実際に出向き、地域の方や講座の仲間との交流を通じて地域の魅力や特色を学びます。

### 山形保育園 参観日

6月7日(木)・8日(木)の2日間、山形保育園で保育参観が実施されました。2日間とても天気が良く、戸外で思いっきり遊ぶ子どもたちの姿を見ることができ、園内は子どもへの得意げな顔や保護者の笑顔であふれかえっていました。芦澤園長からは「ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響で、参加保護者も1人限定していましたが、今年からは2人としました」と保育園も以前の生活に戻りつつあるお話が聞けました。普段見られない子どもの姿が見られる貴重な機会です。次回も楽しみにですね！



### ポンプ操作大会

7月2日



(田)安曇野市防災広場で松本消防協会ポンプ操作大会が行われ山形村消防団の代表として、下竹田分団が出場しました。山形村は2年に1度各分団輪番で参加していましたが、コロナ禍による中止も含まれて平成30年の下大池分団以来5年ぶりの参加となりました。結果は、出場した小型ポンプ操作の部で9チーム中4



6月17日(土)、B&G海洋センターのプールがオープンしました。オープン日にふさわしいプール日和の天候で、泳ぐ小学生の姿が夏の始まりを感じさせてくれます。真剣に泳ぐ子や、笑顔ではしゃぐ小学生に声をかけるとみんな「楽しいよー!」と返してくれました。

一般開放もあるB&G海洋センター。夏休みの有意義な時間としてプールで夏を過ごしてみたいかがでしょうか。

位と大健闘でした。分団長の百瀬悟さんは「昨年から練習を開始し、5月からは毎週ウォーターパルで練習を重ねた結果が出ました」と話してくれました。

小型ポンプ操作大会は操作開始の号令から放水が安定するまでの所要時間わずか45秒を競います。練習で磨かれたきびきびとした所作は美しささえ感じられました。引き続き村の防災をお願いたします。



# 山形小学校音楽会

6月16日(金)、山形小学校体育館で、『校内音楽会』が行われました。

昨年までの交代方式ではなく、全校児童と保護者が一堂に会しての開催となりました。1年生の発表は呼びかけや身振りを加えて元気よく、6

年生は小学校最後の音楽会として集大成に相応しい演奏でした。

どの学年もこれまでの練習がうかがえる素晴らしい演奏で、一曲ごとに大きな拍手が沸き起こっていました。



1年生斉唱『世界の子どもたちとれっつだんす』



6年生の合奏『シング シング シング』



フィナーレは久しぶりの全校合唱『歌よありがとう』

## 山形小学校わくわくクラブ 今年もスタート!

6月23日(金)から4〜6学年対象のわくわくクラブが始まりました。このクラブは地域支援のボランティアなどが講師となり、ソフトボールやバドミントンなどの運動系をはじめ、手芸、自然遊び、伝統文化の学習など幅広い分野の14のクラブで構成されています。

今回取材した料理教室では『山形村産ブロッコリーとエビのオイマヨ(オイスターソースとマヨネーズ)炒め』を作りました。基本の手洗いから始まり、実践を通して包丁やフライパンなどを正しく安全に使えるよう教えていただきました。また調理中の話では、料理をより美味しくするコツとして、エビは水から温めて火を通さないと大きく縮んでしまい見栄えが悪くなること、ある程度火を通してから調味料を入れないと味がなじまないことを教わりました。最後



に試食をすると、児童たちからは「美味しかった。味付け最高!」や「お家でも作ってみたい」などと手ごたえ

充分だった様子がかがえました。今後、クラブ活動は10月下旬までに今後4回開催する予定です。児童の皆さん、次回のクラブ活動が待ち遠しいですね。



## 多彩な14クラブ活動中



## 山形小学校 5年生 海の学習

6月8日(木)・9日(金)で海の学習に行ってきました。1日目は三菱自動車岡崎工場で自動車作りを見学し、製造過程に驚かされました。午後から南知多へ向かい、地引き網や海水浴を行い、捕まえた魚はホテルでお刺身にして夕食で味わいました。2日目はアジの干物作りやビーチコーミング、南知多ビーチランドでバックヤード見学やおもちゃ王国、水族館、イルカショーなどを楽しみました。

初めての宿泊学習でしたが、それぞれが役割を持ち協力しながら仲間と過ごした2日間はいかがえのないものとなりました。



# やまのこ保育園 開園20周年記念式典

7月2日(日)、やまのこ保育園にて、開園20周年記念式典が開催されました。70人以上が参列し、盛大な行事となりました。松本市の姉妹園山の子保育園に所縁のある和太鼓ユニット『天空』の演奏と、保護者による餅つきなどが行われました。



前園長のあいさつ



和太鼓ユニット「天空」の演奏

園を立ち上げた前園長の峯幸子さんは挨拶で、「村内で空き地や空き家を探すところから始め、最初の入園希望者を募るために人形劇を呼びました。その3日後に奇跡的に園舎になる建物が見つかり、この土地に招かれているように感じました。開園後、園児と歩くと、近所の方が声をかけてくださったりリングゴやブドウを分けてくださったり、本当に温かく迎え入れていた



OBと現役父らによる餅つき

いただきました。やまのこ保育園では、子ども同士だけでなく、大人同士のつながりも作れたと思っています。子どもたちの卒園で保護者も代わっていきますが、やまのこ保育園がこれからも続いていくことを心から願っています」と話していました。

岩岡きく江園長は、歴代の父母会長のスピーチを聞いて「当時の子どものことだけでなく、自分の思い出として語ってくださって本当に嬉しいです。それだけやまのこにどっぷり浸かって一緒に歩んできた証だと思います。当園は『子どもを真ん中に、大人も育ちあう』という理念を掲げて歩んできました。私たちの一番の財産は、人と人とのつながりだと思えます。これからも、やまのこ保育園らしく毎日を積み重ねていきたいと思えます」とまとめました。

## やまのこまつり

6月18日(日)、やまのこ保育園にて、『第27回やまのこまつり』が開催されました。バザー、ワークショップ、人形劇、飲食物などの販売が行われ、晴天にも恵まれて多くのお客さんで賑わいました。



大人気のヨーヨーすくい

実行委員長 宮沢由衣さん(小坂)は「私はこれまで何かの長をやった経験がなく、このまつりを通して、いろいろな方と関わって行動範囲が広がりました。今日は、全体を回って宣伝や案内で忙しかったですが、また少し成長させてもらった気がします」と話してくれました。



子供服や雑貨が所狭しと並んだバザー



保護者やOBによる物品の販売



小学生も引き込まれた人形劇団てぶくろの人形劇

## 本物の鯉を観察! 鯉のぼり製作

やまのこ保育園では、毎年端午の節句に向け、年長クラスで鯉のぼり製作に取り組んでいます。5月に散歩で鯉のぼりや池の鯉を見た子どもたちから「鯉のぼりを作りたい!」という声が上がると、まずは本物の鯉を観察する『鯉つかみ体験』が行われました。ビニールプールで泳ぐ鯉を見ると「ひげがある」「うろこが金色だ」と感想がこぼれます。その後同じプールに入り、鯉をそつと撫でたり、抱き上げて力強く体をくねらせ抵抗する勢いを体感しました。そして鯉つかみで感じた鯉の特徴を思い出しながら一人ひとりが鯉の絵を描きました。

クラスで話し合いを重ねて形や配色を決め、完成した2メートルほどの鯉のぼりは、仲間と協力してやり遂げた子どもたちの上をゆったりと泳いでいました。





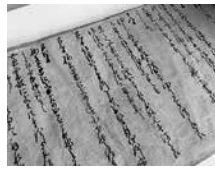
### ゆるっと！ 清水高原 探鳥会

6月18日(日)、清水高原で探鳥会が行われました。朝7時に清水寺駐車場に集合した参加者は、講師の務臺明さん(上大池)から双眼鏡の使い方と野鳥の説明を受けた後、さつそく鳥の鳴き声を頼りに双眼鏡を覗き込んでいました。梅雨の晴れ間に恵まれた今回、エナガ、サンショウクイをはじめ11種を目視で確認、いずれも巣立ったばかりの幼鳥が多く見られました。そして、鳴き声で6種、合わせて17種の野鳥を確認できました。今回の目玉は小さな青い鳥『コルリ』、鳴き声はすれど残念ながら最後まで姿を現してくれませんでした。散策を大いに盛り上げてくれました。



### 古文書講座開講

6月20日(火)、トレーニンングセンターめばえの部屋にて、3年目を迎える古文書講座の第1回が行われました。講師は引き続き塩尻市在住の太田秀保先生で、今年度は安政6年(1859年)に書かれた『諸願書控』という冊物の古文書を通年通して読み解いていこうという試みです。諸願書控とは、松本の御役所に宛てた願い書や届け出を書き控えたもので、当時、大池村



### モビールを作ろう

6月25日(日)、トレーニンングセンターめばえの部屋にて、『モビールを作ろう』講座が開かれ、5名の方がモビール作りに挑戦しました。



台座の藤づるに講師宅の庭で栽培採取・ドライにされた赤緑黄色の品(ナズナ、庭木常緑照

と竹田村、両村の名主であった平作(中村太八郎の祖父)により書かれました。

今回は1枚目に書かれた稲の植付けが5月(旧暦)に終わったことを報告する内容と、2枚目に書かれた、仕事をせず大酒を飲み、人様に迷惑ばかりをかける息子を勘当したい旨を願った書状を読んでいます。古文書から江戸時代の社会構造なども見えてくるのは興味深く、安政6年に何があったのか？先が気になるります。



葉樹の葉)を添え、生花用の糸針金でぶら下げていきます。『花材は購入すると高価ですが、身近な品を利用して楽しむことができます』と講師の



中川みどりさん(小坂)から説明を受けた参加者は、モビール作りに熱心に取り組みました。

### 活き生き塾 活動記録

#### 夏の調理実習 7月4日(火)

トレーニンングセンター調理室にて、調理実習が行われました。今回は『夏野菜』をテーマに、ラタトゥイユ、とうもろこしご飯、おまめサラダ、3色ピクルス、黒糖寒天の5品に挑戦。役割分担をしながら協力して取り組む参加者たちは、一人ひとりの手際も良く、あつという間に5品を完成させました。色鮮やかで栄養たっぷりの夏野菜が食欲をそそります。どれもさっぱりとした味付けで食べやすく、箸が止まらない美味しさでした。調理実習の間にはニュースポーツのボッチャを楽しむなど、盛りだくさんな2時間半を過ごしました。



### 山形村ふるさと歴史展示 縄文土器展

山形村所蔵の縄文土器5点が県宝に指定されてから5周年を記念して、6月6日(火)～18日(日)までミラ・フーデ館展示コーナーで県宝土器展が開催されました。山形村には30箇所ほどの縄文遺跡が見つかっていて、そのほとんどは5千年前の縄文中期のものなのだそうです。主に煮炊きをするための鍋だったとされる縄文土器は、複雑な装飾が謎めいていて引き込まれる美しさでした。



#### おめでた字・題

- 鈴木 風大 拓 下竹田
- 籠田 ゆい 史 織 小坂
- 山口 敢大 堅太郎 小坂
- あゆみ
- おくやみ
- 上條 ひろね 95歳 中大池
- 百瀬 松枝 95歳 下竹田
- 上條 才智 89歳 中大池

# 車系 ②〇

今回のミニ系車は、村内では十数年ぶりの実施となった遺跡発掘調査の様子をお伝えします。

調査が行われたのは上竹田にある殿村遺跡で、ゴールデンウィーク明けの5月中旬から、鉄塔の建て替え工事に伴って実施されたものです。

殿村遺跡では、昭和59～60年に、圃場整備に伴う大規模な発掘調査が行われ、縄文時代の集落、弥生時代のお墓、古墳、平安時代の集落などが発見されており、かなり広い範囲に遺跡が存在していることが分かっています。今回の調査は、その調査地の北と南で2箇所、計300平米弱の限られた広さでしたが、



調査地の様子

新たな発見がありました。

まず南側の調査地ですが、こちらでは縄文時代の集落が主に見つかりました。上の写真は調査地の全景ですが、数多くの穴が見られます。これらはすべて今から4、5千年前の人々が掘ったもので、竪穴式住居や、食料を保存して貯蔵穴、建物の柱穴等だと考えられます。当然すべて埋もれていまして、調査では土の色や質の違いを観察しながら、手作業で掘り下げていくのですが、1メートルもの深さがある穴の中にはあります。発掘作業で1つの穴を掘り上げるのに数時間かかるものがこれだけ多くあります。スコップなどの十分な道具のない大昔に、よくぞこれだけ掘ったものだと感心せずにはいられません。生活していくためには今も昔も多大な労力を払ったのだと実感させられました。

下の写真は、縄文時代の竪穴式住居に設えてあった炉です。直径1メートル程、深さ30センチ程あって、炉の縁には石が並べられています。直径6メートル程の広さしかない住居にしては不相应なくらい立派なつくりの炉で、長い期間にわたって頻繁に火を焚いたことでしょう。底は赤く、硬くなっています。こ

こに一家族が暮らしたとすれば、これだけ立派な炉は要らない気がします。何か理由があったのでしょうか。以前行われたこの遺跡の発掘調査でも、この様な炉が複数見つかっています。

次に北側の調査地ですが、こちらでは室町時代の遺構・遺物が見つかりました。前述の縄文時代の量に比べれば僅かなものですが、溝跡ぬるめ(水田のふちに設けた冷水を温めるための水溜まり)の様穴、掘立柱建物の柱穴等の遺構、土器製鍋(内耳鍋)の破片が出土しました。



住居の炉

山形村には室町時代を始めた中世の文書類がほとんど存在しないことから、歴史を紐解くことが困難な状況です。僅かな発見ではありましたが、確実にこの頃にも生活の営みがあったことを知ることができ、貴重な発見だと思います。今後は、出土した土器などの洗浄、接合、測量などを行います。ある程度進んできたら成果を見ていただく展示会も開催予定ですので、しばらくお待ちいただければと思います。

## みんなの人権 ①〇

### 「性の多様性」—まずは知ることから～村人権教育研修会で学んだこと

学校の授業参観や各種研修会等で人権問題の現実に学び、身近な偏見や差別を撤廃して人権尊重の村づくりを目指しています。今年度は、コロナ禍でしばらく中断していた研修会を6月末に開催し、今課題になっている「性の多様性と人権」について、ダイバーシティ信州会長で性的マイノリティ当事者でもある小泉涼さんの講演をお聴きしました。◇小泉さんはトランスジェンダーで性同一性障害者。セクシュアリティはFTM (Female to Male)。女性として生まれたが、物心ついた頃から性自認は男性で、心と身体の性別の不一致に悩み苦しんできた自分を語りながら、様々な多様性(ダイバーシティ)を認め合う社会環境づくりを訴えられました。◇自分の性別に疑問を抱いたのは小学校入学時。上履きや運動着が男女で色分けされ、何故自分には赤が、と違和感を持ったこと。思春期頃の第二次性徴期の悩み。高校3年次にT.Vドラマ「3年B組金八先生」で上戸彩演じる「性同一性障害」に悩む中学生をみて、自分と同じ悩みを抱えた人の存在を知り、初めて自分を肯定できるようになったこと。精神科のカウンセリングを受けながら学生生活を終え、地元市の役所に女性職員として就職しましたが、2015年に外国で性別適合手術を受け、翌年戸籍上の性別を女性から男性に変更し今に至っているとのこと。これまでも自分を苦しめた生活経験の第1位は「トイレ」。そして「制服・プール・健康診断・女風呂」◇ある統計によればLGBTQと感じる人は13人に1人。なのに差別・偏見のなかで声を上げられず孤立している当事者が多い現実。講演会中に氏名・年齢に続いて「性別男」と大きく表示された自己紹介画面に、小泉さんの勇気と強い決断が現われていました。◇我が村も、「多様性を認め合い、住みやすさ」をさらに高めるウェルビーイングなやまがた」を目指しています。まずはその「差別の現実」を知り、「合理的配慮」の具体的な在り方を探っていくことが、今求められているように思います。

(令和5年7月 M.H.記)



◇わが村には、村長をはじめとする総勢80名ほどの推進委員からなる「山形村人権教育推進委員会」が組織されています。この委員会は、

# 彌磨太鼓さん10周年おめでとう！

6月4日(日)、松本市波田のアクトホールにて、彌磨太鼓10周年記念コンサートが開催されました。満席の大ホールで、彌磨太鼓の皆さんは2時間を超える3部構成のプログラムを演奏しました。

第一部はピアノと太鼓によるポップスメドレーでした。米津玄師の「Lemon」など聞きなじみのある曲で、明るかった空が陰り、雨が降り始めるイメージを表しました。

第二部は、ゲスト出演のGONNAの小林辰哉さん(名古屋市)によるソロステージでした。バチを使わず手で太鼓を叩いたり、全身を使って煩悶の感情を示したりするパフォーマンスで、降り続く雨と、雲間から一筋の光が差すまでを表現しました。

第三部は再び彌磨太鼓メンバーによる演奏でした。曲によっては小林さんも参加して、明るく力強い太鼓の楽曲を演奏しました。そ



は「太鼓だけじゃなくて笛とか色んな楽器を演奏している人がいてびっくりした。リズムが複雑で、こんなにたくさんあるの曲があるのに、小さい子もすっかり叩いていて感動した」と話していました。



中世の作曲家の曲が現在も残っているように、音楽は永遠に続くものです。彌磨太鼓が今紡いでいる、音、そして想いが、ずっと受け継がれていくと良いなと思います」と話してくれました。

家族で聞きに来ていた小学3年生の女の子は「太鼓だけじゃなくて笛とか色んな楽器を演奏している人がいてびっくりした。リズムが複雑で、こんなにたくさんあるの曲があるのに、小さい子もすっかり叩いていて感動した」と話していました。

学校の児童生徒も舞台に加わって大合奏。人とのつながりを大切にする彌磨太鼓ならではのフィナーレでした。

演奏を終えて、代表の増澤靖揮さん(上竹田)は「気付けば10年経っていました。関わる人は替わっても、さらに10年、20年と、いや、百年、千年続いていってほしいと願っています。

これはまるで、虹のかかる空の下を一步一步歩き始めるようでした。最後は、OBや交流のある養護

## チャレンジ! 6月号の答え

### CHALLENGE 館報

8つの違い見つけられた?



## 山形村開村150周年記念 超マニアック三択クイズ!の答え

**問題1** 大池村・小坂村・竹田村が合併して山形村になったのはいつでしょうか?  
(合併御布達書の日付は?)

- 正解は**
- ②明治7年10月22日
  - ③大正3年12月4日は、村役場の庁舎寄付採納が議決された日

**問題2** 山形村の初代村長は誰でしょう?

- 正解は**
- ①永田 久吉
  - ②唐沢 俊樹 昭和初期の内務官僚、政治家。法務大臣
  - ③中村 太八郎 明治から大正期の普通選挙運動の活動家

**問題3** 合併当時の山形村の人口は何人でしょうか?

- 正解は**
- ①3,031人
  - ②5,292人は村史編纂時(昭和54年)
  - ③8,726人は令和元年4月

～館報やまがたへの情報提供募集中～  
身近な情報・感想をお寄せください!

**フォーム** 右のQRコードを読み取ってください。

**電話** 山形村公民館  
☎0263-98-3155



山形村公民館報『館報やまがた』No.807 7月号 令和5年7月発行  
編集と発行/長野県東筑摩郡山形村公民館 印刷/カシヨ株式会社

館報やまがたのバックナンバーは村のホームページ(こちらのQRコードから)でも見るができます→

